

経済・経営・情報をマルチに学び、
自分の可能性を目覚めさせる。

経済情報学科





経済情報学部長
前田 謙二

高校までの勉強ですでに答えのある問題を如何に早く正解するのが重視されていました。しかし、皆さんが大学を卒業して社会に出れば、未解決の問題が山積みです。コロナウイルスの問題、地球温暖化の問題、ウクライナでの戦争、先進国での人口減少問題、発展途上国での食料問題など、ちょっと考えただけでも様々な問題が浮んできます。このような問題は、日本だけで解決できるものではなく多国籍間での協力も必要であり、なかなか解決策がないものが多いです。また、もっと身近に考えても、たとえば会社に入社したとして新製品の開発を担当したとしましょう。どのような商品を開発すれば売れるのかという問題に正解があるわけではありません。会社が何十年も新製品を開発していても、実際に売れる新製品はなかなか作ることはできません。このように社会では、正解のない課題を何年も考え抜き、いろいろと試してみて、工夫することが求められます。

では、皆さんは大学で何を学ぶ必要があるのでしょうか。高校までのような正解のある問題を早く解く練習ではなく、社会で必要とされる正解のない問題へ対処できる練習を行うことが必要になります。つまり、自分で長く考え続け、人の意見を聞き、何らかの解決策を見つけ出す練習をすることが必要になり、その練習が大学で修得すべきスキルになります。そのためには、常に「なぜ」と疑問を持つことがスタートです。教科書に書いていることに対して、なぜそう言えるのか、何が根拠なのか、その根拠は妥当なのか、

他の考え方はできないのか、というようにどんどん深く考える練習が必要になります。大学の講義では正解のない問題を扱いますので、疑問や質問やいろいろな意見があって当たり前です。どんどん教員に質問してください。私も講義では学生にどのように思いますかと尋ねます。正解を求めているのではなく(もともと正解がない問題です)、どのように考えるか、なぜそう考えるのかを聞き、議論したいのです。

経済情報学部には、経済コース、経営コース、情報コースの三つのコースがあり、学生はこれらの三分野の内容を学べるのが特徴になります。このように基礎理論もことなる三分野を広く学ぶことで、より広い見方ができるようになります。そして、3年生からの演習(ゼミ)では、教員の指導を受けながら、自分で見つけた課題に対して、資料収集をして、自分なりの考え方を論理的に文章にして、他人に理解してもらえるように卒業論文を仕上げることとなります。このようにより広い視野から、正解のない問題を自分なりにその解決策を他人にも理解してもらえるように論理的に考える練習こそが、社会で必要とされるスキルの練習になります。是非、大学では知識の単なる暗記ではなく、考えることを重視して学修してください。



学科紹介動画はこちら

経済情報学科の入学者の受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

教育の理念・目的と求める学生像

経済情報学科は、経済、経営、そして情報の3分野を併せて学ぶことを特長としています。基礎的理論と実践的・応用的知識を兼ね備え、主体性をもって自ら問題を設定し解決することで、現代社会のニーズに応えられる人材、社会貢献や地域貢献ができる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、経済情報学科は次のような人を求めています。

- ・日常生活の経済現象に関する基礎的な考え方や理論を理解し、各種資料や経済統計を活用して実際の経済を分析し、経済問題を世界的観点から考えて責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人
- ・経済社会を支える企業活動の現実を直視し、企業経営に関する理論や分析手法を幅広く学んだうえで、その成果を組織の仕組みの改善に活かしたい人
- ・現代社会の基盤となっている情報システムやネットワークの基本原理を学び、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に意欲のある人

入学後の学びに必要な能力や適性等

経済情報学科の教育課程に適應するために必要な入学時の能力や適性等は、以下の通りです。

(知識・技能)

- ①人間・社会・自然に対する深い理解、経済・経営・情報3分野の基礎的な知識の修得につながる「高等学校等で学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語の基礎的な知識・技能」

(思考力・判断力・表現力)

- ②問題分析力・解決力・情報収集力やコミュニケーション力につながる

②-a.「高等学校等で学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語の基礎的な知識・技能をふまえた思考力・判断力」

②-b.「数学的思考力」または「英語の読解力と表現力」

②-c.「専門分野(経済・経営・情報)に関する文章の読解力と自らの考えを論理的にまとめる表現力」

(主体性・多様性・協働性)

- ③実社会における実践や問題解決力につながる「責任ある選択・意思決定、組織の仕組みの改善、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に向けて行動しようとする意欲」

経済情報学科の雰囲気の一部を紹介します。

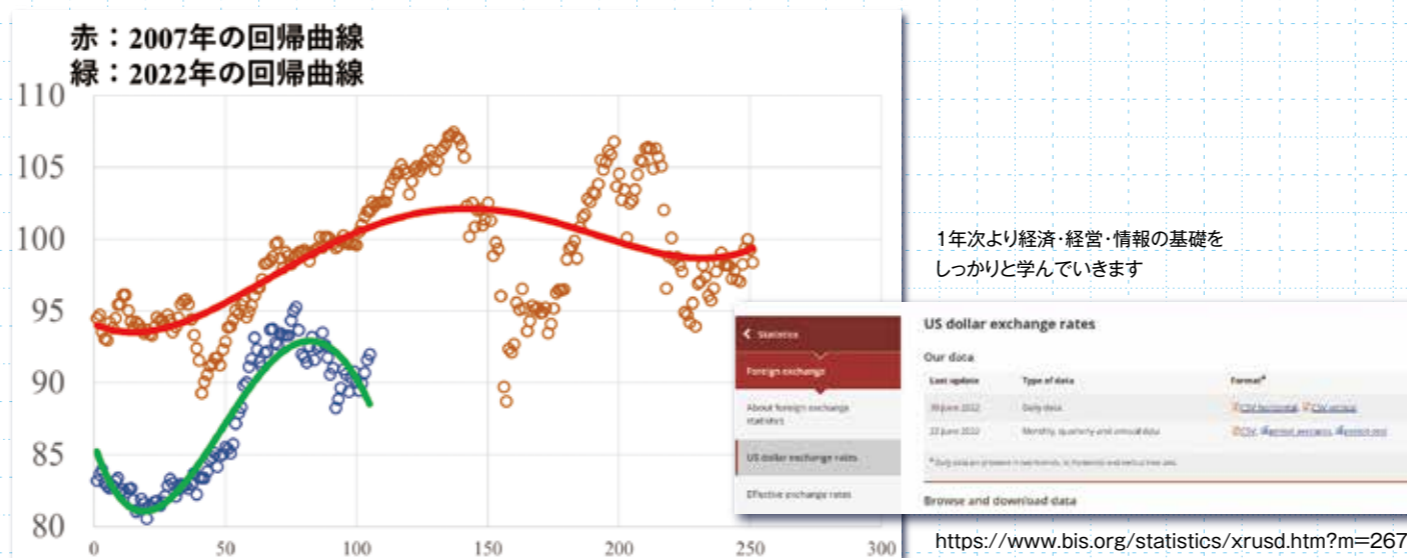
学生主体の学修環境、少人数を強みにしたユニークなゼミ。

勉学の成果を凝縮した研究発表。

4年間を通してゆたかな時間が流れていきます。



大学は自然に囲まれています



3年次以降のゼミでは、卒業論文の執筆に向けて、専門的な内容を学修したり、討論したり、あるいは現場見学に行ったりもします



様々な専門分野を持つ教員が
研究室で皆様をお待ちしています(22~39ページ)



各学生が自主的に勉強できる環境です



4年間の大学生活
を経て卒業へ



経済学では、財、サービス、労働、資本、貨幣などが市場を通じて社会の中を循環する様子（経済循環）を、理論とデータの両面から説明する技術を学びます。経済学には、家計や企業などの行動を分析するミクロ的視点と、経済全体での出来事を分析するマクロ的視点のふたつがあります。

このような視点を軸として金融論、財政学、国際経済学などを履修することによって、私たちの生活にかかわる諸問題を把握・分析するための問題発見能力と企画分析能力を磨くことが出来ます。これらは、ビジネスパーソン・公務員を含めたどのキャリアにおいても、重要性が近年特に増しています。

大学生も、数年後には自分たちが経済社会を運営する立場になります。そのために経済コースでは、規制緩和や年金といった制度・政策、日本と世界の経済史、国際貿易などの世界情勢などについての理解を深めることを目指します。さらに、経済問題を客観的に検証するためには経済データを統計的に分析することが必要であるため、情報処理に関するトレーニングも行います。

経済の論理と技術のみならず、倫理を身に付け、世界や国といった全体を見渡すと同時に、経済主体として家計や会社を経営する能力を身に付けたグローバルな人材を育成します。

想定される進路

1. 行政機関におけるICTを活用した企画、政策の立案、実行
2. 企業、行政機関における情報活用システムの企画、事務、営業
3. 金融機関における業務



金融論

経済コース長・准教授
神崎 稔章

金融の世界は、多くの進歩と制約を経て、現在に至っています。証券化やデリバティブ等の金融革新がもたらす資金の集中や規制のバランスは重要です。ゼミナールでは、自らが主体的に議論できるスタートにたてるにはどうすればよいのかを、経済学と関連付けて進めます。1冊のテキストのみを鵜呑みにせず、社会の在りように疑問を持った方が出てくることを期待します。従って、ディベート大会や学外での経験もゼミナールの特徴です。



公共経済学

経済コース・教授
荒井 貴史

政府による消費者や生産者に対する課税や補助金が、資源配分にどのような影響を与えるのか。価格や取引に対する規制が、社会厚生にどのような影響を与えるのか。政府の市場経済での役割はどのようなもので、その役割の理論的根拠は何か。公共財、外部性、不完全競争、情報の非対称性など、厚生経済学の第1基本定理（完全競争市場における均衡配分はパレート効率的である）の前提が損なわれている「市場の失敗」のケースを公共経済学は理論的に分析します。





マクロ経済学

経済コース・教授
井本 伸

マクロ経済学とは、国や地域全体の経済を分析対象とする研究分野です。経済学では全体（マクロ）と個人（ミクロ）を分けて考えます。なぜなら経済問題には「個人ではどうしようもない問題」や「個人としては正しくても、全体としては良くない行動」があるからです。例えば、不景気という経済問題は個人ではどうしようもありません。そして、不景気に節約するという行動は個人としては正しいのですが、経済全体としては物が売れなくなってしまうため良くありません。したがって、個人がどのように行動すべきかだけを考えているだけでは経済全体の問題を解決することはできません。そこでマクロ経済学では、政府が経済全体に対してどのように行動すれば良いのかを考えます。



金融マクロ理論

経済コース・教授
河野 洋

金融システムの在り方について理論的に研究しています。特に、金融仲介機関と市場のどちらが金融システムをより効率的かつ安定的に機能させるかに関心を持っています。又、情報、金融ネットワーク、政府規制等がマクロ経済に及ぼす影響についても興味を持っています。3・4年生のゼミでは、日本の金融制度や金融政策について基礎知識を確立し、日本の中長期的経済問題に対してどのような対策が必要であるかを議論しています。



社会思想史、経済学史

経済コース・教授
林 直樹

思想史と格闘し続けてきました。人同士の繋がりを辿る中で過去の思想＝アイデアの相関を探り当て、アイデア自体をより深く理解することを目指しています。例えば、確率論的統計学で著名なペイズが約3百年前に活躍した人で、経済学の祖ヒュームやアダム・スミス、あるいはベンジャミン・フランクリンと非常に近い人間関係の中にいたと知れば、ワクワクしてきませんか。思想をつかむことは同時に著作＝テキストを解析することです。テキストマイニングという、将来性に満ちてはいても取り扱い注意な技術に活を入れることも、最近の関心事です。



環境経済学

経済コース・准教授
岡本 隼輔

岡本研究室では環境経済学を軸に研究に取り組んでいます。この分野では廃棄物問題や地球温暖化問題について、経済学の視点を交えて定量的に捉えています。例えば、製品を作る際に素材の採掘や加工、流通などあらゆる段階で環境負荷が発生しますが、それら全てを考慮して計測していくライフサイクルアセスメントの概念もその1つです。また、ワークショップや工場・現場見学なども実施することで、机上の学習と現実社会とを結びつけながら問題解決能力を養っていきます。





社会保障、社会政策

経済コース・准教授

佐藤 沙織

人々の生活を支える手段は様々にありますが、戦後日本ではとりわけ医療がその中核を担ってきました。そこで「なぜ日本では医療に偏重して支える仕組みが発展したのか」という課題の究明から、医療だけに偏らないこれからの社会の支え合いの仕組みを展望することを目指しています。

ゼミナールでは、毎年、医療や福祉の現場で調査合宿を実施しています。わからないことを良く知っている人に「聞く」ことで、社会を「知る」楽しさを実感できる機会を提供しています。



吉和地区の住民との交流



卒論報告会

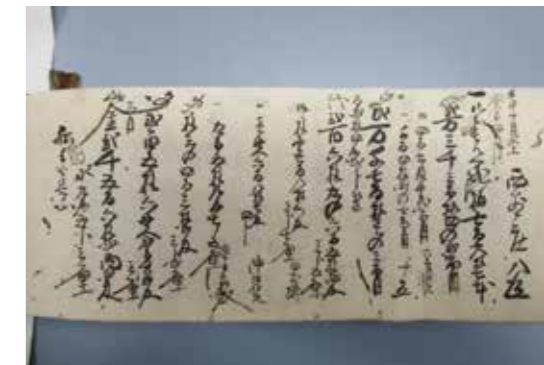


日本近世・近代の流通経済史

経済コース・准教授

森本 幾子

研究室では、地域経済の歴史について学ぶことを主軸に据えています。毎年、尾道・宮島・鞆浦など身近な瀬戸内の港へ実際に足を運び、フィールドワークを行うことによって、その歴史的経緯や特徴について理解を深めています。また、手習い本をはじめ当時の仕切状や帳簿などの古文書の解読を通して、日本近世・近代の商取引の特質を学び、現代と比較しながら考察しています。



「明治二年肥物仕切帳」(徳島大学附属図書館所蔵山西家文書)より



応用ミクロ計量経済学

経済コース・准教授

堀江 進也

被災者の生活再建、災害の復興資源の配分について研究しています。被災人口が莫大であったとき、被災地域が非常に広範囲にわたる場合、誰から・どこから優先的に支援すべき・復興すべきでしょうか。人の人生を左右する問題ですので、経済学の理解と応用には正確さを求められます。また、「現場」を知ることも重要です。このバランスを持ちつつ、自分が社会で重要なひとりであることを認識した人材を育成したいです。



財政学

経済コース・講師

栗田 広暁

財政学とは、政府や公共部門の経済活動である財政を分析対象とする学問です。分析のツールとして経済学を用います。政府は、公共サービスの提供、補助金や課税などを通じて、民間(私たち)の経済活動に介入する存在です。しかし、そもそも、政府はいつ、どのように民間(私たち)の経済活動に介入すべきなのでしょう。また、政府の介入は、経済にどのような影響を与えるのでしょうか。現実社会での政府の介入は、なぜ現状のようになっているのでしょうか。財政学はこういった問いに答えをもたらしてくれます。財政学を学びながら、一緒に考えていきましょう。



経営学は、人、もの、マネー、情報などの経営資源を活用し、市場ニーズに応じて良質な製品とサービスを消費者へ経済的に提供するための企業組織経営の学問領域です。この専門領域を内容とする当経営コースは、経営学の基本とする経営戦略、経営組織、マーケティングの理論と方法論及び経営分析、財務・税務管理、現場管理の実務、そして経営学の史的展開を体系的に学修し、将来には企業組織の事業あるいは行政組織のプロジェクトの推進を担うことができる人材育成を目指します。

上述の目標を達成するために、経営コース中心の専門分野教育を特化し、必修科目及び選択必修科目を再編成しています。このコース所属の学生は、マーケティング戦略と経営組織の理論を主とする諸経営科目を縦断的に、経済学や情報科学などの科目を横断的に学修することによって、経営の基本的な知識と技法を的確に理解できる能力を持ち、仕事を効率的に進めるための幅広い知識とスキルを身につけて、経営の視点からビジネス上の諸問題を整理・分析・解決できる人材となることが期待されています。

想定される進路

1. 企業マネジメント全般への参画
2. 企業における経営情報を活用した経営組織の在り方や経営戦略の立案、実行
3. 企業における経営情報システムの立案、実行



マーケティング、経営戦略

経営コース長・教授

小川 長

経営学は「良いことを上手に実現するための学問」と定義できます。そうすると、経営を考えることは次の二つのことを考えることになります。一つは、大方の人が経営学だと思っている「上手に実現するための方法」ですが、もう一つ大事なことがあります。それは、「良いこととは何か」を考えることです。実現すべき良いことを考えず、方法ばかり考えるのは本末転倒です。本研究室は、このように経営を根本から考えていきます。



天文学、宇宙物理学

経営コース・教授

川口 俊宏

ブラックホールが宇宙の歴史に果たした役割を研究しており、天文・宇宙・物理に関する授業などを担当しています。本校での唯一の自然科学分野の教員として、論理的思考力を鍛える教育を目指しています。天文・宇宙の授業を専門家が担当しているのは公立・私立大学の約1割です。天文部で活動していたり、宇宙に興味を持っている高校生が大学生になった時に、一緒に学んでいけたら嬉しいです。



銀河の中心部にある巨大ブラックホール周辺の模式図

2018年8月に市民の方々向けに開催した講演会の様子。「銀河のでき方」は「やぶさ2」について解説されました。



会計史、簿記、財務会計

経営コース・教授
津村 怜花

複式簿記は13~14世紀のイタリアで誕生し、世界各国に伝播しました。日本にも明治初期に「輸入」されます。なぜ複式簿記は各国に伝播し得たのでしょうか?このような疑問を探究することで、会計史は現在や未来の会計の問題等を考えるうえでの視点を提供するとともに、歴史を解き明かす、魅力ある研究分野です。

右の書籍・論文から、会計史の知識や会計史研究の魅力を知っていただくと幸いです。



ドイツと日本の経営学説、企業倫理の理論と実践ほか

経営コース・教授
西村 剛

ゼミのテーマは「ワーク・ライフ・バランス (Work Life Balance) の理論的・実践的研究」です。「仕事と生活の調和」について学んでいきます。現在「働き方改革」が注目されるなかで、日本的雇用慣行は徐々に変化しつつも依然として労働者に過酷な労働条件を突きつけています。例えば長時間労働、過労死・過労自殺、正規-非正規労働者の処遇格差など。こうした過酷な労働条件のもとで労働者はどのように企業と関わり、どう対応していくべきかを探っていきます。



健康・スポーツ

経営コース・教授
藤岩 秀樹

教養教育の健康スポーツ科目を担当しています。健康スポーツ科目は、「健康スポーツ学」(講義)、「健康スポーツ実習Ⅰ」、「健康スポーツ実習Ⅱ」、「野外スポーツ実習」からなっています。身体運動やスポーツを媒介に、生活の基本である健康・体力に関する正しい知識と、健康づくりの具体的方法に関する知識や実践能力の獲得をめざしています。





租税法

経営コース・教授

前田 謙二

税金は公共サービスを提供するためなどに必要であり、国会で決められた法律(税法)に基づいて納められます。人間は生きていくために日々様々な取引を行っています。すべての取引が税法と関わっています。税法を知らないために損をすることもあります。では、税法にはどのようなルール(概念・条文・判例)があり、どのような問題があるのでしょうか。租税法の研究とはそれらの問題解決や経済の変化に応じ税法はどのようにあるべきかを考えるものです。



基本的人権、憲法

経営コース・准教授

溝淵 裕

教養教育科目の法学概論、日本国憲法を担当しています。日本国憲法99条は、天皇と公務員に憲法尊重擁護義務を課しています。平成天皇は、憲法の定める国事に関する行為のみを行う(4条1項)だけではなく、「国民統合の象徴」として、戦死者を慰霊し、被災者を慰問することが、憲法を尊重することになると考えました。同性婚の届出を受けた戸籍係、訴訟を受けた裁判官も、婚姻を文字通り「両性の合意のみ」に基づく(憲法24条1項)として請求を退けることが憲法を尊重することになるのか、それとも家族の在り方の変化に対応することが憲法を尊重することになるのか真剣に考えることが求められていると思います。このような問題について、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



会社法

経営コース・准教授

王 佳子

企業の中で最も多いのが「会社」ですが、アメリカのシカゴ学派は、会社を、「契約の束」と定義しています。この考え方は、会社が無数の契約を通して、組織を形成し、さまざまな取引活動を展開しているという実態をよく捉えています。それでは、会社は、契約を結ぶことでどのような権利を有し義務を負うことになり、その権利を実現するためにはどのような手段を採ることができ、義務を履行しない際に誰がどのような責任を負うことになるのでしょうか。

本研究室は、具体的な事例をもとに、こういった問題について検討をしています。



国際経営

経営コース・講師

趙 怡純

企業の活動は国内にとどまらず海外にも展開しています。近年、海外市場での売上高が国内市場を上回るようになった企業も数多くあります。海外市場では文化・環境・制度など国内と状況が大きく異なるため、企業は予想もなかった困難に直面することがあります。その反面、海外の顧客に好まれる商品やサービスを提供し、大きな成長をとげた例もあります。本研究室ではこのような国際経営特有の課題について研究しています。皆さんと一緒に広い視野をもって企業の抱える問題を考え、議論していきたいです。





管理会計

経営コース・講師

吉田 政之

管理会計は、財務会計と異なって企業内部のマネジャーや従業員に対して情報を提供し、経営上の意思決定に役立てられています。そのため、管理会計情報は特定の規則や原則に縛られることなく作成される点が特徴です。私はそのような管理会計情報と、投資者などの企業外部者への報告目的で作成される財務会計情報との関係性について研究しています。



情報コースでは、現代社会の基盤となっている情報技術の基本原理を中心に学び、学修事項をデータサイエンスの基礎、経済学、経営学と関連づけてより深めます。情報技術に裏付けられたデータ分析能力や課題解決能力を身につけ、情報システムの設計から運用までを担当できる社会で広く活躍できる人材を育成します。

日本の社会では、マーケット(経済)とビジネス(経営)が分かり、データサイエンスの基礎を身につけたICT技術者やコンサルタントが不足しています。例えば、ユーザ企業の置かれている市場や経営の特徴を数理的に分析し、ユーザ企業の弱みを補強し強みをさらに強化するICTソリューションを提案し、自社の経営戦略に基づいてICT戦略を立案し、それを実現する情報システムを設計したりする人材です。このようなことは工学系の情報学科を出たICT技術者には難しく、情報科学に加えて経済学や経営学も学ぶ本学科の情報コース卒業生が活躍できる場だと思います。

将来このような仕事に就く人材の育成を目指して、情報コースのカリキュラムは設計されています。情報関連科目は大きく3種類に分けられます。1つ目はコンピュータを用いて情報を適切に処理する能力を養う科目です。レポートや卒業研究など大学での学修・研究活動や、卒業後に社会における様々な活動において必要となる知識とスキルを修得するための科目です。「情報活用基礎」「情報とコンピュータ」「統計学」などの科目があります。2つ目は情報分野のより専門的な科目です。プログラミング言語によるソフトウェア開発、ネットワークの仕組みや特徴、情報システムの設計方法など、情報科学の様々な分野を学修します。データサイエンスに関連して、ビッグデータの活用や人工知能の応用なども学修します。「プログラミング」「ネットワーク科学」「情報システム設計」「機械学習と人工知能」などの科目があります。3つ目は経済分野、経営分野と情報分野が重なる領域の科目です。異なる学問分野が交差することで生まれた新しい学問を学びます。「ビジネスとデータサイエンス」「経済情報論」「経営情報論」などの科目があります。



想定される進路

1. 情報関連の企業・組織における次世代のシステム・サービス・技術の研究開発
2. 企業・組織の経営戦略に基づいた、最新技術を活用したICT戦略の提案・策定とその実現の推進
3. 企業・組織におけるICT戦略実現のための最適な情報システムの企画・設計・開発・運用の指揮



情報システム設計ほか

情報コース長・教授

有吉 勇介

情報システム設計とは、ユーザーの「こんな情報システムが欲しい」という要望を分析整理して、仕様書と呼ばれるソフトウェアの設計図にまとめ上げるまでの一連の作業のことです。最近の日本では、仕様書は日本人が作り、プログラミングはインドやベトナムなどで行う国際分業が多くなってきています。その結果、日本のIT系企業ではプログラマよりも、仕様書づくりに関わる人が増えてきています。そのため情報系の大学ではプログラミングと同じぐらいに情報システム設計の勉強が重要になってきています。



観光振興に役立つ データベース連携型 Webシステムの開発

情報コース・教授

高山 毅

Covid-19は、観光業界にも膨大な被害をもたらしました。afterコロナや、少なくともwithコロナが見えてきた中で、ITや観光情報学の立場から、観光の復興を支援するシステムの開発を行います。また、世界の潮流を見据え、「SDGs(持続可能な開発目標)を考慮した観光支援システム『観光DX(デジタル・トランスフォーメーション)』にも取り組みます。

基盤技術としては、「Webアプリの開発手法」、および「データベースと連携できるシステムを開発するノウハウ」を習得します。IT関連の進路を選択肢にできるように、授業やゼミで力を貯め、社会で実際に役立ち得るシステムを開発します。



数学教育、情報教育

情報コース・教授

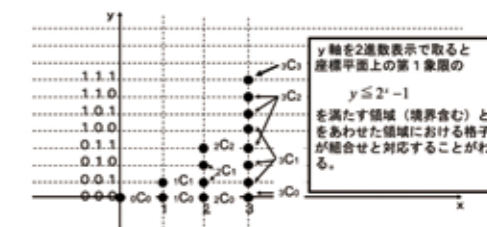
南郷 毅

私の研究室では、学習指導要領や教育に関する社会的背景を理解した上で、教育に関する諸問題を様々な角度から検討します。例えば、「教科間の関連を図る指導が重要である」という命題に対して、「数学と情報の学習事項を関連させた教材」を開発したりします。図で示しているのは、情報で学ぶ「情報のデジタル表現」を活用し、数学で学ぶ「組合せ」を解釈した教材の一部です。2進数を活用し、組合せを座標平面上で表現しています。

最近、IT企業でも教育関連の案件で教育への理解が求められるようです。教育のわかるIT技術者になってみませんか？

2進数表示を活用した組合せの解釈

■ 座標平面上に表現された組合せ





ビッグデータ、人工知能

情報コース・准教授

木村 文則

文章(テキスト)を中心とした「ビッグデータ」の分析が主な研究テーマです。最近注目されている「人工知能」にも取り組んでおり、テキストだけでなく画像も対象にしています。また、通常のゼミとは別に「人工知能勉強会」を開催し、関心のある学生がゼミの垣根を超えて集まり、協力しながら学んでいます。新しい技術についても積極的に学び、社会で活躍できる力を蓄えてもらいたいと思っています。



情報ネットワーク、機械学習

情報コース・准教授

本田 治

ゼミでは情報ネットワークを主なテーマとしていますが、学生の研究テーマとしては加えて機械学習もテーマとしています。情報ネットワークの研究では、ネットワーク上で効率良く通信をしたい、通信の品質を制御したい、などの要求をどのようにすれば実現できるのかについて扱っています。機械学習の研究では、小説の様々な特徴をどのようにすれば自動的に抽出できるのかなどについて扱っています。



解析的整数論

情報コース・准教授

宮川 貴史

解析的整数論という分野の多重ゼータ関数について研究しています。ゼータ関数とは、素数の背景にある関数で

$$\zeta(s) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^s} = 1 + \frac{1}{2^s} + \frac{1}{3^s} + \dots \quad (\text{Re}(s) > 1)$$

という形をしています。1と自身でしか割り切れない自然数を素数と呼んでいますが、素数の列 2,3,5,7,11,13,17,19,... は未だ規則性が解明されず、関連としてリーマン予想という最大の未解決問題が残されています。

リーマン予想 (懸賞金 100 万ドル)

$$\zeta(s) = 0 \quad (0 < \text{Re}(s) < 1) \text{ ならば } \text{Re}(s) = \frac{1}{2} \text{ である (?)}$$

この予想解決に向けた試みによりゼータ関数の理論は大きく発展し、そこで新たに生まれた多重ゼータ関数の理論が注目されています。



2022年度卒業論文(各ゼミナールの代表論文)

○一級水系芦田川での水害と水質改善に向けて

○Twitterの商品レビューとしての特性

○隣人トラブルについて売主と宅地建物取引業者に説明義務違反があるとされた事例 一大阪高裁平成16年12月2日判決判例時報1898号64頁一

○徳島県産のさつまいもが日本経済に与えている影響について

○食の地域ブランドの確立過程に関する考察
～今治やきとりを事例に～

○島根サノオマジックのホーム試合開催時の観客の消費行動によって生じる島根県内への経済波及効果

○親の収入・家庭環境等と子どもの学力の関係について

○SNSによる地域別観光客訪問地の選択傾向分析

○国際フランチャイジングにおける日系外食企業のパートナー選択基準

○電力の安定供給に向けた原発再稼働の可能性
～東京電力の経営成績に基づく一考察～

○高等学校情報科における情報モラル・リテラシー教育の構築

○「効果的な利他主義者」を例にしたより良い寄付を増やすための方法

○食品ロス問題解決のための提言

○安楽死と尊厳死

○ローカル線の廃止問題と今後の向き合い方
～尾道鉄道の事例とフィールドワークを踏まえて～

○医療費控除改正の方向性の検討 一制度趣旨に着目して一

○家庭用ゲーム機販売台数に影響を与える影響分析
一任天堂に焦点を当てて一



すべての
卒業論文タイトルは
こちら



経済コース卒論発表

「食品ロス問題解決のための提言」

堀江ゼミ 小山 奈桜

私は、食品ロス問題の現状や発生原因、さらに解決に向けた取り組みについて考察しました。現在の日本における食品ロス量は年間522万トンです。これは、国民一人一人が毎日おにぎり1個分程度の食品を廃棄している計算になります。食品ロスの発生原因には、消費者の食品ロスに対する認識の低さや鮮度志向、それに応えようとして生まれた商慣習などが考えられます。

事業活動を伴って排出される事業系食品ロスの削減に向けた取り組みとして、商慣習の見直し、食品リサイクル法について調査し、これらの取り組みの注意点・問題点についても考察しました。その結果、食品ロスの削減のためには企業の取り組みや制度の改革だけでは限界があることがわかりました。事業系とは言うものの、消費者には無関係というわけではありません。つまり、企業と消費者の双方の取り組みが必要となります。事業系食品ロスのさらなる削減のためには、現行の政策において従量的な規制を行うことだけでなく、消費者の食品ロスに対する意識改革や行動変容が求められると考えられます。

今後は、事業系だけでなく、家庭系食品ロスの削減方法や消費者の意識改革のためにはどのようなことが効果的かなどについて考察し、問題解決に導くことが課題となると考えられます。



経営コース卒論発表

「医療費控除改正の方向性の検討 一制度趣旨に着目して一」

前田ゼミ 五島 可純

私は、所得税法における医療費控除の妥当性について考察しました。所得税法には、所得の一部を課税対象から除く所得控除があります。所得控除の一種である医療費控除は、一定以上支払った医療費を所得から控除できるという制度です。公的医療保険制度が充実している今、医療費控除の存在意義が薄れていると考え、所得控除の中でも医療費控除に焦点を当てて、医療費控除のあるべき姿を検討しました。

医療費控除の制度導入時の趣旨とその後の改正を踏まえたうえで、現行制度の趣旨を確認し、実際の裁判でどのように解釈されているのかを確認しました。制度趣旨と包括所得概念の考え方から、医療費控除は政策的に導入されたものであると評価しました。また、高額所得者の方が低額所得者に比べ税負担軽減効果が高いという所得控除の性格を考えると、担税力の低下を救済するための医療費控除は所得控除には適さないと判断しました。

そこで、医療費控除はどのような姿であるべきかを検討し、現行の他の制度や過去の実例を見た結果、税制と社会保障制度との一体化・連携が重要であると考えました。医療費控除は、他の控除制度や社会保障制度との関係性を十分に考慮したうえで改正が必要であると考えられます。



課税所得	支払医療費	控除額
100万円	100万円	100万円
150万円	150万円	150万円
200万円	200万円	200万円
250万円	250万円	250万円
300万円	300万円	300万円
350万円	350万円	350万円
400万円	400万円	400万円
450万円	450万円	450万円
500万円	500万円	500万円
550万円	550万円	550万円
600万円	600万円	600万円
650万円	650万円	650万円
700万円	700万円	700万円
750万円	750万円	750万円
800万円	800万円	800万円
850万円	850万円	850万円
900万円	900万円	900万円
950万円	950万円	950万円
1,000万円	1,000万円	1,000万円

情報コース卒論発表

「YouTubeの動画を利用したドライブコースの推薦」

木村ゼミ 井上 桜太

私は、YouTubeの動画を利用したドライブコースの推薦について研究しました。ドライブや観光の際の運転において景観の良さは運転を楽しむうえで重要だと考えました。そこでドライブコースの景観について話しているYouTubeの動画を利用して、ドライブコースの評価を行いました。提案手法の特徴は、視聴回数、高評価数などの動画の測定指標と、その動画に投稿されたコメントの分析結果を組み合わせることで、紹介されているドライブコースの評価をおこなうことです。

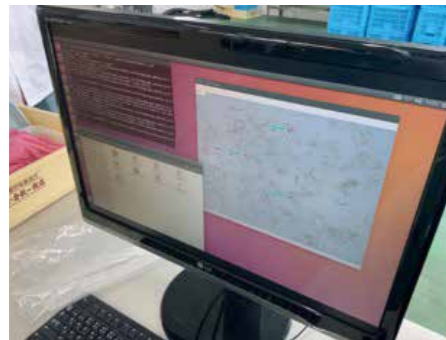
中国地方の各県につき、「○○県 ドライブコース」、「○○県 ツーリングコース」と検索を行いそれぞれ五つの動画を抽出しました。コメントはosetiという感情分析ツールを用いて印象の良し悪しを推定し、その結果とキーワードを基に分類分けを行い、分類ごとに点をつけスコア化を行いました。

検証実験として、日産ドライブナビというサイトのドライブスポットランキングと提案手法の結果と比較を行いました。YouTubeで収集を行った動画のコースで通過するスポットや寄り道が可能であるスポットを含むコースが多くあり、ある程度の一致はあると考えられました。そのうえでYouTubeという動画を利用したことで、日産ドライブナビにはない場所を通るルートが上位にあることから、YouTubeを利用することによって得ることのできた評価の高いコースを知ることが出来ました。

評価を行った動画条件や評価を行う計算式、コメントの分類方法などを変えることによって評価が大きく変わる可能性があるため、さらに検証を重ねて改良する必要があると考えています。



地域貢献

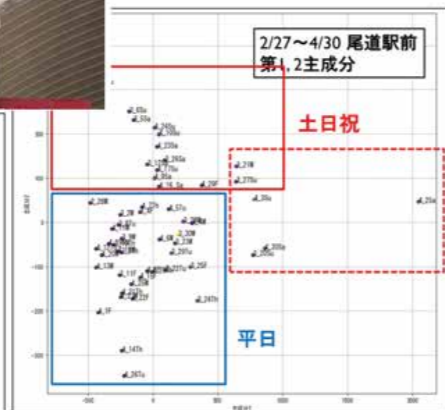
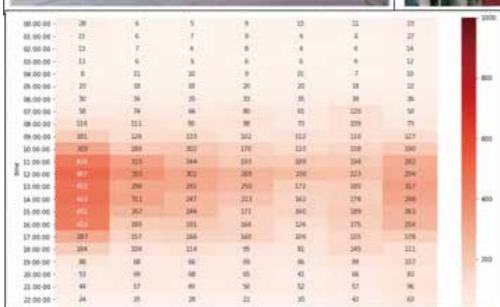


経済情報学部では、経済・経営・情報のそれぞれの分野で、地域に寄り添う教育研究活動に取り組んでいます。

例年、商店街との連携企画や市民講座等、多彩な活動が見られます。本学科の特徴を生かしつつ、データと想像力と現場への関心力を駆使して町の振興を考えることもできます。



AIカメラの導入による
尾道商店街の人流調査
<https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/26/47295.html>



木村・本田研究室受託研究 「AIを用いた水産塩干物 製造における異物選別」



AI処理の現地での実験風景

少人数教育・ゼミ活動

尾道市立大学の特色として「少人数教育」を挙げることができます。経済情報学科は他の2学科に比べて多人数ですが、教育の場を複数かつ多層に分けて提供することで、多様なニーズに応えつつ、きめ細やかな指導ができるように工夫しています。1年次の基礎演習は全員が履修する必修科目で、大学での学びのイントロとなります。3年次から4年次にかけて履修する専門演習（ゼミ）も必修科目です。指導教員のもと、全員が卒業論文を仕上げなければなりません。これは教員が一人ひとりの学生とそれだけ真剣に向き合うということです。他にも、より専門性の高い内容を少数精鋭で実践する特別演習も用意しています。教わるだけでなく教員とともに研究に励み、かつ楽しむ場として、この演習を活用できます。学生の「やる気」という最大のニーズに応えて、経済情報学科は学びの場を惜しみなく創出していきます。



専門演習Iのフィールドワーク（森本ゼミ）



尾道の歴史と経済を辿る様子



廃校を再利用した施設の見学風景（岡本ゼミ）